

興產株式會社京城

宮本武藏

第六十回

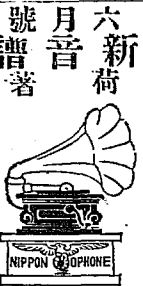
浪上義三郎速記




吉岡アハヤ打たれたるかと思ひの外、
ビラリ身を軽したる其早き、餘れる
木劍を竹刀にてパツチり受ける、宮
本正振じたりと木劍を引かんとして
は這は如何に竹筥が木劍に寄るに
旋れたる、振旋さうとすれば彼方へ
引張られる、振旋さうとすれば手許へ
一緒に迫入つて来る、之を吉岡の棚
付流といふ、南無三吉岡の棚付流に
陥つたり、木劍を擡落されては時
じを考へたるから宮本、右の木劍を
ツチリ十字に受け止めた、十字とい
ふのは木劍を立て右劍を横にして敵
の劍を間へ挟んで受ける、受けて置
いて左劍が右劍を脱して敵を打つ
之は宮本の得意とする所だ、誰も此
十字を破つたものはない、然るに吉
岡の竹刀を受け止めるごうした機
會が右劍が保たないヤツ、と咎を
懸けて居る中にズル／＼と小手が下
がる十字が崩れるから宮本飛退つて
構へと變へる、吉岡遠さず打込んで

其儘にして置いて左の木劍を振上げ、一足飛上つて吉岡を打たんとする。吉岡心得たりと體を引いて今度は宮本の左劍をビタリ押へる、右劍が放れたから宮本、袖たゞ真向から打込んで来る。飛房も左右一度に押へることは出来なから打込んで来る宮本の木劍を替つて手許へ飛込み、一尺三寸の竹刀を振上げて宮本の面門を覗つて打たんとする、宮本左劍を持つて面門を避ひ、右劍を振つて附ぐ、双方共に名聲の技倆、互ひに秘術を盡しての勝負に大内記殿を初め家中一同酒に酔へる如く又夢の中に遊ぶか如く恍惚として見て居る、其中如何なる遠やあつたり吉岡又三郎大喝一聲真向から打込んで來た竹刀、宮本さしたつたりと飛退いて、

來るから再び十字に受ける、所どういふ譯か十字が保たないや、手が下つて來る、之は不思議の事あるもの、吉岡は天下の名人、まただこの技倆が足らんかと考へたが宮本撥すれば打たれるに依つて飛退、十字を賜つて立たむば左右に飛退、吉岡の真向から打込んだ竹刀、岡飛鳥の如く體を交すて流れる宮本の右劍を目掛けて竹刀を持つてビロリ打つた、ハツと思つて木劍を以ていたが間に合はぬ、赤煙を以てつた木劍を物の見事に真中から切て落した、恰かも鎧刀を以てて切て落した、早くアツと書いたが流石の本、手早く左劍を右に取直して飛退、吉岡の如く飛込んで來て打下さ、吉寛す間がないから後ろへ壁と倒れ



新荷
六音
月音
號普著



NIPPON JAPHONE

京城 本町 日本蓄音器商會

分らない、不思議に思召したか、
大「兩人に惹ける事あり、近う参
りて吉岡に一禮致し、限を御前へ
み平伏する。大「コレ、只今の立
向相からん。武「ハツ只今の立合は
岡の腰で拙者の負でござい升。大「
房其方の腰が、兼「エ手前には負で
本の腰でござい。大「同じくや
な事を申して居る、兩方負でござ
負があるか、武藏は又急に櫻の木
飛上つたのは不思議である打たれ
中に參つたと申したのは何故であ

齒科專門 大正齒科醫院

か、武^ぶ恐^{おそ}れ乍^はらに是迄他流試合を
りましたが今日程種々立合を致し
た事はございませぬ、竹刀を以て
鯨を切るるといふ吉岡の技倆は廣大
遊、而已ならず手前幼年より工頭
たしました十字を二度迄も破られ
したは吉岡の技倆非凡なるに依り
到底手前の對手ではないと心得ま
して發を驕けました、大「くム吉岡は
何や」と云ふ私も永年立合をいか
ましたが宮本程の武藏者に出會つ
事はございませぬ、機に隨んで進
する事敵の如く今半刻も戦ひを續
ける時は必ず負るに相違ございませ
ん木蘭は切落しましたが危きじ
んに櫻の梅に飛上りました早業、
人々の衆とは見えず遠く及ぶ處
ございませぬ」

舊五月七日乙亥
本命七赤西取大安

[illegible]

再三宮内省御買上
の光榮を辱ふぞり

東 京 一 番 賣 人 美 液
 東 京 一 番 賣 人 美 液

木一カ！液を朝夕の洗面入浴後に御

召し遊ばせば
國色を白く、キメを細かにし
國アシを防ぎ、色艶を好くし
日ヤケ、白粉ヤケを防ぎ
國子供衆の皮膚を丈夫にし
國性來色の白いやうに見え
ます、又

本舖
 堀越嘉太郎商店
 振替東京三四一八
 東京和泉橋
 御注文九元

りん病



本館……名古屋市廣小路通・小林盛大堂
大坂・野町小林大藥房 東京・藤井龍角大藥房
函買所……全藥藥店若無は、皆金魚送附券不裁

閑靜にして避暑寒に宜し



温泉陽温泉

温泉陽温泉

安東大連天津航路

大連市
大連汽船株式會社

の利便あり

每月天潮丸 (一、三〇〇噸)	每月濟通丸 (二、一〇〇噸)
安東一等金 五拾圓	大連間三等金 五圓
安東二等金 貳拾五圓	

運賃

安東一等金貳拾五圓	安東一等金拾五圓
天津間三等金拾圓五拾錢	大連間三等金五圓

出張所
安東縣財神廟街
天津獨逸租界



れて美くしい
流行のお化粧

近頃東京に流行して來ましたのは、上品で清潔した新東京式お化粧で御座います。新東京式お化粧には、上品で清潔した新東京式お化粧で、恐らくレイト白粉程、ピツタリ流行化粧に近づいたものは御座いません。それは、附り伸びのよいのは勿論、附けて落附きがよく光澤があるので、それが何と云へず奥底しくて格ななのでレイト煤白粉の化粧に替れる事は、真に目醒めるやうで御座います。さて此季節のお化粧は、淡化粧で殊に淡化粧には新東京式が際立つて美しく御座います。それには、注文デザイネをお顔に引いて、水白粉をおつけになれば、注文通りのお化粧が出来ますが、煤水、レイト洗粉で洗つた肌へレイト水白粉だけおつけになつても美しく御座います。外出時には化粧直しにレイト打白粉か紙白粉を持つておいでになるのを忘れなすつてはいけません。

新東京式のお化粧が
思ふ様美しく出来る

宮内省御
皇居職用
各官家品

ト
ト
ト
白粉

京 東
平 贅 尾 平

[illegible]